



吉田文和教授

## 吉田文和教授の退任記念号に寄せて

吉田文和先生は、令和3年3月をもって本学経済学部を退任されました。吉田先生は昭和48年3月に東京都立大学経済学部を卒業され、昭和53年3月に京都大学大学院経済学研究科博士課程を単位取得のうえ退学されました。その後、同60年11月に京都大学にて経済学博士の学位を取得されました。職歴につきましては、同53年4月に北海道大学経済学部専任講師に着任後、同55年4月に助教授、平成4年8月に教授、同12年4月に大学院経済学研究科教授に就かれました。同大学では、同17年4月には同大学公共政策大学院附属公共政策研究センター長、同22年4月には同大学経済学部経済学科長の重職に就かれました。その後、同27年3月に北海道大学を退職され、同年4月より愛知学院大学経済学部に教授として着任されました。

研究面では、吉田先生は環境問題について経済学的及び産業技術的観点から研究され、数多くの優れた研究業績を残されました。その研究姿勢においては、理論的側面だけでなく、国内外にわたる調査研究、すなわち現場主義による実証的側面も重視されています。福島原発事故の悪夢がまだ覚め遣らぬ頃、『ドイツの挑戦—エネルギー大転換の日独比較—』（日本評論社、2015年）と題する高著を拝見させていただきました。同著を通じて、日本とドイツはともに敗戦国、非核武装国、世界に冠たる工業国でありながら、環境政策やエネルギー政策において相違があり、その背景と原因が手に取る様に分かりました。ドイツは「長期的見通しと戦略性」及び「政策決定過程」において、先進的かつ斬新的であると痛感しました。そして、2022年に勃発したロシアのウクライナへの侵攻によって、エネルギー問題が再燃している現在、先生のご高見を承りたいところであります。

教育面では、吉田先生の積年の研究成果の一端は、本学経済学部の発展科目である「環境経済学」を通じて、多くの学生に広く還元されました。先生の穏和で柔らかな口調による授業は、多くの学生を専門演習の履修へと導きました。専門演習では、国内外にわたる調査から収集されたスライドを駆使され、臨場感あふれる授業をなされていたと聞きました。

研究及び教育面以外においては、吉田先生は環境経済・政策学会副会長、北海道環境審議会会長、札幌市廃棄物減量等推進審議会会長などの重職を歴任されました。その精力的な社会的活動は内外に発信され、高く評価されています。

本学経済学部はその設立から10年目を迎えました。吉田先生は、まさに本学経済学部の素地をつくるべき重要な時期に在職され、私どもは先生の学殖やご経験から、様々な面でご指導を受けました。苛烈な大学教育環境の下で、私どもは先学より築きあげていただいた成果を継承し、さらなる飛躍を遂げて参りたく存じます。

ここに吉田先生の退任記念号を刊行させていただき、先生のご功績を讃えるとともに、これまでの幾多のご尽力に感謝いたします。

令和4年12月

経済学部長 吉田 雅彦